

5号鉢仕立てポットマムの定植苗本数の削減による生産コストの低減

～定植苗数を減らすことで商品性は向上する～

山崎一郎（東三河農林水産事務所農業改良普及課

前・新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【平成23年6月15日掲載】

【要約】

景気の低迷や生産過剰により、鉢物全般の市場取引価格は頭打ちとなっている。その一方、重油価格は高騰し、生産資材費、流通経費も上昇を続け、生産コストは毎年上昇している。

そこで、新城市の主要品目である5号鉢仕立てポットマムについて、購入苗の定植本数を5本から4本に減らす栽培を試みたところ、商品性に問題は無く実用性が確認できた。

1 はじめに

景気の低迷や生産過剰により、鉢物全般に市場取引価格は頭打ちとなっている。その一方、生産資材費、流通経費は上昇を続けており、生産コストは毎年上昇している。

そこで、新城市の主要品目である5号鉢仕立てポットマムについて、購入苗の定植本数を5本から4本に減らすことで生産コストを削減しつつ、商品性を確保できるかどうかを検討した。

2 展示概要、調査方法

供試品種に、デコラ・アイボリー、デコラ・パープル、デコラ・ラベンダー、デコラ・イエローを用い、種苗会社から購入した発根苗を平成21年6月18日、7月2日、7月9日、7月16日に、4本植えと5本植えで5号鉢に定植した。栽培は、農家の慣行で行った。

出荷直前に、商品性の判断として10鉢ずつ1鉢当たりの有効分枝数（着色蕾数）を調査した。

3 結果

（1）品種による有効分枝数の違い

品種	デコラ・アイボリー		デコラ・パープル		デコラ・ラベンダー		デコラ・イエロー	
	4本植え	5本植え	4本植え	5本植え	4本植え	5本植え	4本植え	5本植え
6月18日	21.0	20.8	20.5	21.7	21.0	19.8	16.4	20.2
7月2日	21.0	20.2	19.6	19.0	19.4	22.8	19.4	19.0
7月9日	21.2	23.0	20.0	21.6	21.6	24.6	19.8	22.4
7月16日	17.4	19.2	18.4	19.8	21.8	23.2	17.8	17.2
平均	20.2	20.8	19.6	20.5	21.0	22.6	18.4	19.7

有効分枝数は、いずれの品種も20本前後であった。デコラ・ラベンダーがやや多く、デコラ・イエローがやや少なかった（表1）。

(2) 定植本数による有効分枝数の違い

1鉢当たり有効分枝数の平均本数は、いずれの品種も5本植えて4本植えより多かった。その差は、デコラ・ラベンダーでは1.6本、デコラ・イエローでは1.3本とやや大きかったが、その他の品種は1本未満であった。

(3) 商品性評価

生産者段階の秀品基準は、1鉢あたり有効分枝数15本以上である。いずれの品種もこの基準を上回った。



写真1 デコラ・イエローのポリュームの比較 (左4本、右5本)



写真2 デコラ・ラベンダーのポリュームの比較 (左4本、右5本)

4 まとめ

- (1) 定植本数を1本減らすことで、1鉢当たり購入苗代11円が削減された。
- (2) 定植本数を減らしても、株間が広がることで1株当たりの有効枝数が増え、ポリュームは確保できた。
- (3) 株あたりの根量が増加するため、株のぐらつきが減り、商品性は向上した。